

もっと知ろう！ガラスびん

第1回

原料や起源

ガラスびんの基本を学ぶ

何からできているの？ どれくらいの種類があるの？ など、私たちの身近にあるのに、あまり知られていないガラスびんについて、くわしく見ていくよ。今回は、ガラスの起源と原料、種類について紹介するよ！



同じように見えてもちがう物！？

分別をしっかりとしよう！

ガラスは窓ガラスやガラス食器、けいこう灯、液晶ディスプレイなど、いろいろなものに使われているけれど、少しずつ成分がちがいで、溶ける温度もちがうため、リサイクルするときはきちんと分別する必要があるんだ。おうちがある自治体の分別方法を守ってね。



いつからガラスびんは使われているの？

ガラスが誕生したのは、今から5000年ほど前のエジプトで、砂を熱で溶かしてできたのが最初だといわれているよ。日本にガラスが入ってきたのは弥生時代だと考えられているけれど、日本人の生活にガラスが登場するようになったのは、明治時代に入ってからなんだ。その後、技術の進歩に伴い、さまざまな色や形のガラスびんが誕生し、中身が分かって使いやすだけでなく、中身の味にもおいも変わらないので、広く使われるようになったよ。



ガラスびんは何からできているの？

ガラスびんの主な原料は、けい砂、石灰石、ソーダ灰と、空きびんをくだいたカレットだよ。ガラスびんやガラス食器、窓ガラスなど、最も多く使われているガラスはソーダ石灰ガラスで、かたくて軽いのが特徴なんだ。また、ティーポットやサイフォン、フラスコやビーカーなどに使われている耐熱ガラスは、熱に強く、かたくて軽いよ。高級なガラス食器や装飾品などに使われているクリスタルガラスは、やわらかくて重いのが特徴。カット模様を付けると、キラキラとよくかがやくよ。



ガラスびん3R促進協議会

公式サイトにはこちらからアクセス！



キッズ向けサイト『びんの森』に遊びにきてね！

